

# 2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/29

団体名	カスミソウ 自由登校を見守る会	活動タイトル	不登校・行き渋りの親子の孤立防止支援事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	<p>私たちの団体が実現したいのは「どんな子どもも尊重される社会」である。</p> <p>学校に行けない、行きづらい子どもたちの中には、様々な特性を持つ子どもたちがいる。一方で、学校に通っている子どもたちも同様に様々な特性を持っている。両者の違いは「学校に行っていない」ことだけだが、このたった一点の違いが、親子に大きな苦しみ・悩みをもたらし、孤立させてしまう現状がある。学校に行っていないも行っていないなくても、どの子どもも価値ある存在であることを共有できる社会を実現したい。</p>		<p>「フラツとな集い」ボードゲームの会</p> 	
●団体の社会的役割(ミッション)	<p>私たちのミッションは不登校・行き渋りの親子の孤立を防ぎ、彼らが地域で学び遊べる環境を作ることである。具体的には下記の取り組みを柱とする。</p> <p>1)保護者と子どもの孤立を防ぐために、つながりや居場所を作り、不満や不安を受け止め合う。(対話・共有・相談)</p> <p>2)不登校や行き渋り、子どもの教育や福祉に関する情報を収集し共有する。(学びあい)</p> <p>3)どんな子どもも尊重される社会を実現するために発信し、働きかける。</p>			
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成・確保：家庭訪問、居場所で相談に対応できるスタッフを育成・確保する。地域からはボランティアや講師などの人材を確保。</li> <li>●リソースの確保：不登校・行き渋りの親子の居場所を作る。様々な団体と連携し、居場所のネットワークを地域に構築する。</li> <li>●活動資金：不登校・行き渋りの子どもがいると経済的負担が大きいことから、参加費は最低限におさえ、寄付金募集や自主事業の開発を行う。</li> <li>●ナレッジ：メンバーが情報収集しやすい環境を構築する。学校や社会福祉協議会等と連携し、利用可能な機関や社会資源の情報を常に更新する。</li> </ul>			
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>●居場所の実施</p> <p>不登校親子の孤立防止を目的とした定期開催の居場所は、継続的な参加者に加え、新規の参加者が毎回一組程度あり、子どもたちの年齢層が小学生から高校生までと広がりが出てきた。メンバーのニーズを拾い、小学生向けのカードゲームの会や「癩癩」をテーマにした親のおしゃべり会など、小規模の居場所も実施した。</p> <p>●個別の聞き取り調査の実施</p> <p>準備に時間がかかり4月から実施した。一人一人時間をかけて話を聞くことで、経緯や困りごとの詳細を把握することができた。その中には他のメンバーにとって有益な情報も多く、団体全体の知見の向上につながった。</p> <p>●不登校・行き渋り事例の発信</p> <p>聞き取り調査の遅れから、記事での発信は8月となった。イラストレーターにイラストをお願いし、記事内容をイメージしやすく、シリーズ感が出るようにした。</p>		<p>●居場所の実施</p> <p>①開催：72回（当初予定36回）688名の親子が参加</p> <p>②参加者アンケート結果：「ほかの参加者と交流できた」親は90%、子どもは67%</p> <p>●個別の聞き取り調査の実施</p> <p>①17名に実施</p> <p>②全ての人々が等団体も含め、相談・支援・医療機関とつながっていた</p> <p>●不登校・行き渋り事例の発信</p> <p>①4本の記事を発信</p> <p>②noteを見てメンバーになった人はいない。福岡県の親の会とつながることができた。</p> <p>●活動基盤の強化</p> <p>①1年間に29回MTG実施、運営メンバー3名から4名に増員</p> <p>②運営メンバーアンケート結果：全員が「相談スキルがアップした」「ややアップした」と回答</p>		
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題		■活動成果のアピールポイント（自由記入）
<p>●継続した居場所の開催により、親子からニーズを拾う機会も増え「カードゲームの会」「癩癩」をテーマにした会」「哲学対話」「お父さん会」などの開催につなげることができた。</p> <p>●対面/小規模/オンラインの3パターンの居場所に、それぞれ継続して参加してくれる人が出てきている。参加しやすい選択肢を用意する重要性を再認識した。</p> <p>●地域の他団体とのつながりが増え、共同企画で居場所を行ったり、ともに行政に声を届けたりすることができた。市原市では、子ども計画策定のため子どもへのヒアリング方法に関して行政職員から相談があり、子どもたちの声を行政に直接届けることができた。</p> <p>●聞き取り調査による詳細な状況把握が、団体にとって非常に有益な情報のストックになった。個別の聞き取りでしか把握できない詳細な経緯・事情・困りごと・要望を知ることが、現在の事業の課題や改善点に気づき、新たな事業の発想を得ることができた。</p> <p>●事例発信により、福岡の親の会とつながった。ノウハウを共有できる可能性が広がった。</p>		<p>どんな子どもも尊重される社会というビジョン達成の一步として、等団体は不登校・行き渋りの親子の孤立防止をミッションとしている。その実現に向けて「居場所」「聞き取り調査」「事例発信」の3事業を実施した。</p> <p>「居場所」では参加者の多くが他の人と交流でき、「聞き取り調査」では、自身の経験を語り聞いてもらうことで孤立の解消につながった。しかし、子どもが知らない場所に行けず、親との分離が難しい状況だと、親子共々居場所への参加ができないため、アウトリーチ型のアプローチの必要性を感じた。また居場所や聞き取りで語られる内容を見ると、学校や家族、支援者の言葉に傷ついた経験が多く、周囲の無理解に苦しむ人が多い現状がわかった。理解促進のため「事例発信」に着手してはいるが、まだ記事が少なく、効果が出るまでには至っていない。今後は蓄積された事例を使いながら、地域で子どもと関わる様々な立場の人たちとともに、対応策を考えていけるような場作りの必要性を認識した。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>72回の居場所開催、参加者688名とブログ記事4本で当事者の声の発信を達成しました。</p>
		■受益者の具体的な変化（自由記入）		
		<p>・新しい場所は苦手というお子さんが、居場所を気になって継続してきてくれることがあった。また親から離れられない子が、居場所でほかの人と遊ぶことができた。</p> <p>・ボウリングや料理など、居場所で新しいことに挑戦する子どもがいた。</p> <p>・当事者のお母さん自身が居場所の企画をしてくれることがあった。</p>		